

感謝 念いは永遠に

芳賀青年の家は、健全な青年の育成を図るための社会教育施設として昭和36年、常緑広葉樹が広く自生する一方落葉広葉樹が遺存し四季を通じて野鳥の鳴き声を聞くことができる恵まれた自然、名刹西明寺をはじめとする豊かな文化財や史跡、民芸益子焼の窯場の煙がたなびく自然的文化的環境の調和したこの地（芳賀郡益子町益子）に開所。その後、利用者の増加や目的の多様化、青少年を取り巻く教育・社会環境の変化に加え施設の老朽化も相まって、昭和59年4月に21世紀を担う新しい構想の社会教育施設としてリニューアルオープン。

人情味豊かな地域の方々の熱意ある援助や諸先輩のたゆみない努力、築きあげた伝統・繋がり・絆のもと不易と流行を常に調和させ、施設の特長を存分に生かし、今日まで体験学習をとおした人づくり、生涯教育の第一線を駆け抜けてきましたが、令和6年3月31日をもって63年の歴史に幕を下ろすこととなりました。

温かく支えていただいた地域の方々をはじめ、これまでお世話になりました講師の先生方、ご利用いただいた多くの皆様、ご協力いただきました関係各所、そして旧職員の皆様に深く感謝申し上げます。

玄関を入ると『来たときよりも美しく』の十文字と、雲巖寺58代住職植木憲道老師が来所された折りに残された『朝は希望に起き 昼は努力に生き 夜は感謝に眠る』の言葉が目飛び込みます。訪れた方々の心にも強く残っている言葉ではないでしょうか。昭和36年の開所来連綿と受け継がれ道標としている本所の心髄です。念いを忘れることなく。

これまでの永きにわたる栃木県芳賀青年の家へのご芳情に深く感謝申し上げますとともに、皆様の今後ますますのご健勝をお祈り申し上げます。

63年間、ありがとうございました。

令和6(2024)年3月

栃木県芳賀青年の家所長